



—— 高山視察では、飛騨牛を肥育している牛舎も視察。 ——

生産者の声

子牛価格低迷と飼料価格高騰で畜産経営は厳しい。現在、飼料価格対策緊急支援事業により配合飼料への支援はありますが、稲藁は支援対象となっていない。輸入に頼らない飼料の確保もお願いしたい……。



03

持続可能な農業経営の実現に向けた県の取組について

質問 03 -1

自然災害からの復旧・復興に対する支援としては、産地の強靱化と農業者・産地の皆さまにより一層、寄り添った支援にアップグレードする視点が必要ではないか？

答弁 農政部長

異常気象や物価高騰など、厳しい経営環境を克服するため、様々な制度を最大限活用いただけるよう、これまで以上に農業者に寄り添った伴走型支援の強化が必要であると考えている。

ご指摘の被災農家のハウス復旧については、**事業申請前の着手を認め工期を確保するほか、災害発生に備え、共済制度への加入やハウスの補強を働きかけていく。**

質問 03 -2

「今を精一杯頑張っている農家・農業」を支援する制度も作ってほしい

答弁 農政部長

温暖化の影響緩和に向け、高温に強いコメへの転換や園芸ハウスの遮光対策などを促し、**規模の拡大を伴わない農業者も対象に、こうした新品種・新技術の導入に必要な資機材の整備を支援していく。**

さらに、経営収支の改善に向け、農業会計ソフトを活用した所得データの見える化を促進し、他産地との比較分析を行う研修会や、税理士・中小企業診断士による個別相談を行っている。

質問 03 -3

持続的な畜産経営の実現のためには県内産の稲藁の確保についてスピード感をもった対策が必要では？

答弁 農政部長

県内での稲藁の確保に向けては、まずは、水田の多い西濃地域と飛騨牛生産が盛んな飛騨地域をつなぐ広域流通モデルの構築に着手していく。

令和6年第3回岐阜県議会定例会において復旧支援に対する補正予算が可決されました。

〔農業用施設の災害復旧への支援 事業費 41,800 千円〕
令和6年3月に飛騨地域で大雪となり、その影響で高山市内の農業用ハウスが倒壊する被害が発生したため、被災した農業者の早期の営農再開を図るための復旧支援を行う。

揖斐郡内の活動報告

池田町 地内 深町川堤防沿いの雑木撤去

住民の皆様の声

「堤防道路の河川区域側の雑木が成長し雑木林のように…」

地域の皆様からこのような声をいただきました。私も現地を確認させていただきましたが、堤防道路は薄暗く、歩くのもなんとなく怖い感じと、雑木が家屋や電線にかかるぐらい成長してきており、川側にも大きく張り出している状況を確認いたしました。河川管理者である岐阜県に確認いただき、河川の水の流れや堤防への影響、さらには地域の景観・防犯の観点からも雑木を除去していただきました。



大野町 地内 金尾滝周辺の災害復旧事業に令和6年度着手

令和5年8月の豪雨によって、大野町野地区内にある金尾滝周辺が被災いたしました。皆さんは、大野町野地区金尾滝周辺には、金尾滝山荘という宴会や宿泊ができる施設があり、その周りにはバンガローや釣り堀があったことをご存知でしたか？



●金尾滝・バンガロー村
今を去る約10年前の村長足利利雄氏。金尾滝の地に東大寺の分寺東明寺を建立しましたが、家正10年火災し東明寺は全焼、この跡を堂ヶ野といふこの地に、金尾滝が建設されました。また県の指定キャンプ場になったバンガローも、美しい金尾滝周辺に大小20棟建て、大谷スカイラインに連なる遊歩道も建設されています。
※写真資料大野町 1979 町勢要覧より

しかし、時代の変化によって、そのような施設は撤退し、金尾滝周辺の森林も荒廃していったそうです。現在では、地元地域の皆さまが立ち上がり、再び金尾滝周辺を令和の時代にふさわしい、サステイナブルな森林づくりと森林サービス産業に向けて取り組んでいただいております。



R5.8月豪雨による金尾滝周辺の被災状況

今年度、岐阜県においては、当初予算において、豪雨により荒廃した流路（水路）の復旧として治山事業の予算が計上されました。今後、地域の皆様・大野町・岐阜県が連携して復旧事業に取り組んで参ります。昨年の8月豪雨では揖斐川町や大野町牛洞地内でも土砂災害が発災しました。本年度も引き続き治山事業を進めていただきます。

“ **令和6年第3回岐阜県議会定例会の概要（予算関係） 一般会計予算の補正予算は、189,612千円**
〔自動運転による公共交通サービス導入に向けた取組の推進 69,954千円〕
運転手不足によるバス路線の廃止や減便、タクシーの不足など、地域における「移動の足」を維持・確保していくことが困難となっている。このため、これまでの運転手不足対策に加え、運転手を必要としない自動運転バス等の導入に向けた取組を推進する。
自動運転による公共交通サービスの導入を検討している多治見市、瑞浪市、恵那市、土岐市及び下呂市を対象として、想定される運行ルートにおける課題の調査及び自動運転の実現に向けた工程表の作成などを行う。 ”

岐阜県議会議員 国枝慎太郎事務所

〒501-0532 岐阜県揖斐郡大野町下磯 521-2 杉原ビル 2F
TEL.0585-32-1003 FAX.0585-52-9307
公式ホームページ URL k-shintaro.com
E-mail shintaro.k1229@gmail.com

日々の県政情報や活動は下記の公式サイトでもチェックできます。



岐阜県議会議員 国枝慎太郎 岐阜県政ニュース

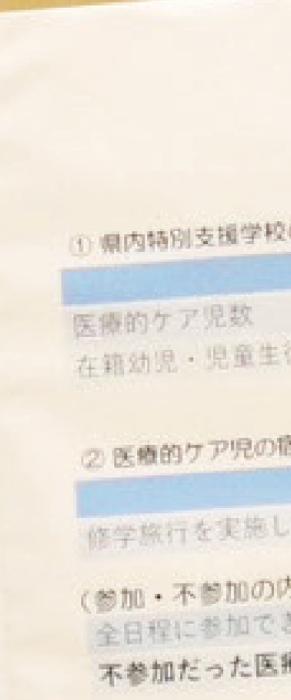
岐阜県議会議員
国枝慎太郎
2024.7 Vol.32
県政報告
通信

トピックス

岐阜県議会定例会にて一般質問 3項目について政策提言 岐阜県議会 常任委員会 農林委員会 委員長を拝命



- 政策提言 1. 県内特別支援学校に通う医療的ケア児に対する支援の拡充について
- 政策提言 2. 薬草の里づくりプロジェクトのさらなる展開について
- 政策提言 3. 持続可能な農業経営の実現に向けた県の取組について



「といろ大野」の皆様とおしゃべり会を開催

保護者 A さんの声

子どものためだから、何とかして私が同行して修学旅行に行かせたいと思っていただけ、核家族であること、きょうだいがいること、父親の仕事の都合で、どうしても平日に宿泊を伴う修学旅行に付き添うことができません。このままでは、残念ながら諦めさせなければなりません。なんとか看護師さんの同伴で修学旅行に行けるようにしていただきたい、と声をあげたいのですが、**医療的ケア児**の保護者としては、正直少数派でもあり、声も上げにくい。また、自分の子どもによって、他の児童にも迷惑をかけたくないという心のウチも・・・。

保護者 B さんの声

てんかん発作のある児童の保護者からは、いつ学校から連絡があるかと思うと、仕事も選ばなければならぬ。しかし、生活をしていくためには、夫婦共働きで頑張らないと生活がやっていけない。なかなか子どもの付き添いが思い通りにできず、精神的にも不安がありませんと、声を詰まらせながら・・・。

※おしゃべり会でいただいた医療的ケア児の保護者の声（一部抜粋）

「といろ大野」のご紹介

障がいのある人・発達に不安のある人の家族の会。知的・身体・精神・難病手帳をお持ちの方のご家族や手帳はないけれど、不安のある方のご家族の皆さまとの交流・相談事業や情報提供を行っている団体です。



R6年2月「といろ大野」おしゃべり会に参加

当日は、大野町・揖斐川町・池田町の在住の方々にもご参加いただきました。

全国の医療的ケア児は約2万人と推計されています。

「医療的ケア児」とは、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」の第二条の2において、「日常生活及び社会生活を営むために恒常的に医療的ケア（人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為）を受けることが不可欠である児童をいう。」と定義されています。

医療的ケア児とは

01

質問 01

特別支援学校に通う医療的ケア児が保護者の同伴なく修学旅行や現場実習に参加できる体制づくりについて

県内特別支援学校における宿泊を伴う学校行事に対し、**医療的ケア児の保護者負担軽減（同伴なし）**に向け、**新たな選択肢をつくる。**との答弁

答弁 教育長

医療的ケアを必要とする児童生徒への支援と保護者負担の軽減を図るため、対象となる特別支援学校に、平成14年度から看護師を順次配置し、今年度は、15校に76名を配置。令和元年度から、日中の校外での学習活動について、それまで保護者の同伴が必要であったが、看護師の同行のみで参加できるようになりました。一方、修学旅行等の宿泊を伴う活動には、現在、保護者の同伴が必要であるため、中には、同伴がかわらず、参加を諦めざるを得ない児童生徒もいる。こうした中、看護師の夜間も含めた同行は、保護者の負担軽減や、今まで参加がかなわなかった児童生徒が、在学中にしかできない貴重な経験をする手助けとなると考えている。



先ほどご紹介の要望（R6.4.18 に、保護者負担等の軽減を願う保護者による署名74名分を 堀教育長に提出）のほか、他の学校の保護者からの要望もあり、**看護師による夜間の医療的ケアが適切に実施できるよう、現在、仕組みを整備している。その仕組みが整い次第、夏休み明けを目処に、開始できるよう取り組んでいく。**

02

「清流の国ぎふ」文化祭 2024 を契機とした 薬草の里づくりプロジェクトのさらなる展開について

質問 02 -1

揖斐川町と連携した今年度の取組について



答弁 農政部長

揖斐地域の薬草文化の魅力を県内外の多くの人に発言するため、国民文化祭の開催にあわせ、薬草を学び、楽しみ、味わう場を提供していく。**具体的には、伊吹山麓の薬草資源・歴史・薬草の効用、利用方法などについて、講演会や事例発表を通して理解を深めていただくためのフォーラムを開催する。**また、薬草が自生する野山で、様々な種類の薬草探しを行う体験ツアーや、地元の高中生やシェフなどに新たな薬膳メニューを開発いただき、飲食店でこれらの料理を提供するフェアなども開催する。併せて、地元の若者がヨモギやドクダミなどを原料に開発した「ぎふコーラ」について、手軽に飲んでいただける「ペットボトル入り商品」への開発を支援し、フォーラム、フェアの参加者に向け、広くPRしていく。また、揖斐川町では、**薬草の里拠点整備**に向けた検討が進められており、県としても積極的に参画し、支援を行う。

令和6年度から岐阜県では、**揖斐川町と連携し、「薬草の里づくりプロジェクト」が始動。**【令和6年度当初予算10百万円】

私は、これまでも揖斐川町春日地域の貴重な伝統文化や風土を観光資源として活用できないかという視点、また最近では笹又エリアの山林荒廃問題や治山対策等についても質問させていただきました。

その大きな理由としては、揖斐川町春日地域には、伊吹山麓だからこそその古から続く春日の「薬草文化」、在来種のお茶栽培に伝統野菜、さらには「さざれ石」など、オンリーワンの魅力があるからです。

そのような中、岐阜県では、本年度から伊吹山の豊富な薬草を本県の貴重な財産として位置づけ、揖斐川町と連携し、薬草の里づくりプロジェクトが始動しました。

現在、揖斐川町では、いび薬草の里づくりプロジェクト推進協議会を立ち上げ、「知る。体験する。活用する。作る。」を事業テーマに、令和6年度から令和9年度の4年間のロードマップを描いております。

私は、このプロジェクトの最終形は、薬草の栽培から販売までのサプライチェーンが形成され、中山間地域の農業・産業として成り立つことにあると考えております。この仕組みの構築こそが「薬草文化という貴重な財産」を守り続けることに繋がると考えております。岐阜県においても、一過性の支援ではなく、息の長い支援を地域の皆さま・揖斐川町と共に進めていきたいと思います。



※2008年9月 県政広報・表紙より

2024年10月 / 薬草フォーラムを開催「揖斐の文化発信」

質問 02 -2

薬草の里づくりプロジェクトの次年度以降の展開について

答弁 農政部長

本年度の取組も踏まえながら、引き続き薬草文化の魅力を広く発信していく。その一方で、薬草の採取量や生産量が減少してきており、需要に応じた薬草の供給ができなくなることが危惧されている。中山間地域の農業振興につなげる観点からも、遊休農地などを活用し、薬草の生産の拡大が必要と考えている。

このため、薬草利用を希望する飲食店や和菓子屋などと情報交換会を開催し、ニーズを集約したうえで、生産する薬草を選定していく。併せて、生産する農業者の掘り起こしを進めるとともに、専門家による栽培情報も含め、技術的なサポートを行っていく。**薬草は、中山間地域の気象や土地条件にも適した品目であり、薬草生産の取組が、中山間地域における農業振興のモデルとなるよう揖斐川町と連携し取組を進めていく。**

質問 02 -3 再質問

「揖斐川町は令和9年度までのロードマップを描いており、県としても、引き続き次年度以降もしっかりと揖斐川町とタッグを組み、歩調を合わせて継続的に支援をしていくのか」

という視点も含めて、再質問しました。

答弁 農政部長

薬草というのは体に良い薬草とそうではないものとの見分け方は、長年培われてきた経験があればこそ、付焼刃では薬草を採取するのは危険だということが書かれている。（議場に配布した岐阜県広報誌ふれあいに記載されている内容）私たちが今年度いろいろ動かしていただきます中で、揖斐川町で先人の方から脈々と

受け継がれた技術や経験があるということで、そういったところを非常に大切に、やっていかなければいけないと思っている。つきましては、関係者と連携しながら、**少し息の長い活動になるということは認識しておりますので、そういった連携をしながら続けていきたいと考えている。**

岐阜県議会 常任委員会 農林委員会 委員長を拝命

本年度、私は、岐阜県議会において農林委員会委員長を拝命いたしました。就任後から今日至る間、農林委員会の県内視察やJA いび川青年部の皆様との意見交換、さらには、今年3月の雪害によって259棟ものビニールハウスが倒壊等の被災をした高山市内のホウレンソウやトマトの産地を視察させていただきました。6月議会においては、この雪害からの復旧にむけての予算も計上されましたが、高山市の産地の皆様からいただいた声や地元揖斐郡の農業経営者の皆様からいただいた声を中心に、「持続可能な農業経営の実現に向けた県の取組について」をテーマに一般質問いたしました。

令和6年3月に高山市内で発災した雪害による農業関連の被害状況を視察、意見聴取



【農業関係被災状況】
●被災戸数 74戸
●倒壊等のビニールハウス 259棟
被害総額 約1億4千万円

被災された農業経営者の方と意見交換
[視察先 経営概要]ほうれんそう129a
今回の雪害で、ビニールハウス24棟が倒壊約40aの農地面積が被災
今回の雪害で最も大きな被害面積だった経営者と意見交換

